

第16号

2014.11.1

1999-2014総集 特別号

表浜地域づくり情報誌「潮騒」は、田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の活動内容や地域で進められている各種事業に関する情報提供を行うとともに、この地域のすばらしい自然や先人達の残した文化などを紹介するため生まれた情報誌です。

1999（平成11）年10月に創刊され、毎年1号ずつ発行されています。第16号は15年にわたって情報誌が掲載した内容を抜粋し紹介します。

CONTENTS

- ◆地域の話題 ◆協議会の概要・あゆみ・活動成果
- ◆特集 表浜地域づくり情報誌「潮騒」第1号から第15号より
- ◆表浜むかし話「源五郎さの鍬」 ◆表浜風土記 ◆平成26年度事業計画

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会
表浜地域づくり情報誌

しおさい

潮騒



百々海岸から浜田方面を望む

地域の話題

●表浜地域の神戸校区・大草校区・六連校区・田原東部校区の自慢の話題を紹介します。

神戸コミュニティ協議会

▶里山里海体験会でまちおこし

平成26年7月21日(月・祝)、神戸コミュニティ協議会とほうべの森公園準備委員会が企画した「里山里海体験会」を開催しました。体験会では、地元の子どもたち約140人が谷ノ口海岸で地引網に挑戦し、カタ

クチイワシやサバなど大量の魚が網に入りました。

芝生園地では、石窯で焼いた手作りピザをふるまい、ドングリや貝を使った工作教室も行いました。



大草コミュニティ協議会

▶受け継がれる「わら細工」

平成25年12月20日(金)、わら細工教室を開催しました。例年は稲わらで「しめ縄」を作っていますが、今回は無病息災や豊作を願って、今年の干支「馬」を作りました。

当日は、小学校の児童を中心に60名が参加し、指導いただいた大草わら工芸教室のみなさんとふれあいながら、伝統工芸に触れる喜びを体験しました。



六連コミュニティ協議会

▶ 子どもたちによる砂の造形

六連小学校の春の遠足を、平成26年4月24日(木)に行いました。全校児童83名は、学年が混じった縦割り班に分かれ、百々海岸で砂の造形を作りました。「イカ」「サメ」「ヘビ」「ネズミ」など自慢の造形ができあ



がりました。

また、5月24日(土)には、百々海岸において親子で地引網を行いました。太平洋の海の幸をみんなで満喫し、ふるさとの良さを実感しました。



田原東部コミュニティ協議会

▶ 子どもたちが主役の地域事業

平成26年8月21日(木)に、田原東部コミュニティ協議会主催で「たのしい理科ちゃん教室」を開催しました。開催目的は、実験の面白さを学ぶことで子どもたちに理科に興味を持ってもらおうというものです。



今回は、田原東部小学校4年生の50名が参加し、お菓子の空箱で望遠鏡づくりを体験しました。子どもたちは屋外に出て、できたばかりの望遠鏡を覗き込み、身近な風景を楽しんでいました。





「みんなで考え・行動する地域づくり」

◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会は、六連、神戸、大草、田原東部の4校区の皆さんが中心となり、海岸浸食や農地の荒廃、農村生活環境の変化の問題解決を目的に平成8年1月16日に発足いたしました。

地域整備の指針である構想や整備プランを実現するための計画を策定し、長年にわたり海岸整備の促進を図るとともに、拠点地区の整備事業を継続的に取り組んできました。

また、表浜自然ふれあいフェスティバルの開催をはじめとするソフト事業を通じて表浜海岸の魅力を発信しつづけています。



▲昔から表浜レジャーの「主役」の一つである海釣り(昭和50年頃の写真)

■会長あいさつ

本協議会も発足以来17年を経過し、神戸・大草・六連・田原東部の4校区が一丸となり、少しずつではありますが、自立した地域活動を歩み進めてまいりました。

平成17年に策定した谷ノ口地区整備基本計画に基づき、市と協働で、集落環境整備が進められていると同時に、「表浜ほうべの森公園」の整備も着手しております。協議会として、また、東部太平洋岸地域全体としても、その実現が大いに期待されているところであります。

今後も、4校区のつながりをより深くするとともに、渥美半島が一つになり、同じ海岸環境を持つ地域との連携も視野に入れながら、行政と一体となって取り組んでまいりたいと思っています。

最後に、太平洋岸の快適で住みよい生活環境整備が実現されるよう活動していきたいと願っております。



田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 会長 彦坂雄三

○愛すべき表浜がこれからも人を幸せにする地域でありつづけるために、協議会みんなで何をすべきかを考え、行動しています。

■協議会組織(平成26年10月現在・順不同)

役員	会長	彦坂雄三(神戸コミュニティ協議会会長)
	副会長	彦坂善弘(大草コミュニティ協議会会長) 村上誠(田原東部コミュニティ協議会会長) 小林直春(六連コミュニティ協議会会長)
委員	市議会議員	赤尾昌昭、彦坂久伸、仲谷政弘、牧野京史、大竹正章
	漁業関係者	富田實(愛知外海漁業協同組合理事)
	市農業委員	木下和洋、白井進、大河照治、大羽秀敏
	市役所	林 勇夫(副市長)、小川金一(産業振興部長)、太田次男(都市建設部長)、前田和宏(教育部長)
顧問	鈴木克幸(田原市長)、山本浩史(愛知県議会議員)、中神享三(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	田原市役所政策推進部(政策推進課)	

◆協議会活動のあゆみ

平成8年1月16日	<p>田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(旧田原町太平洋岸総合整備促進協議会)発足</p> <p>表浜海岸の浸食、農地荒廃、農村生活環境の変化などの課題に対応し、表浜地域の総合的な整備促進を図るため、神戸・大草・六連・田原東部の4校区の地域住民が主体となり、田原市(旧田原町)などの関係団体を加えた「田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(旧田原町太平洋岸総合整備促進協議会)」が発足しました。</p>	 <p>▲サングリーン21</p>
平成8年3月	<p>沿岸部に関する地元要望作成</p>	
平成9年3月	<p>地域整備の指針となる太平洋岸地域整備基本構想「サングリーン21」策定</p> <p>太平洋岸地域を「海浜エリア」「崖森エリア」「農地エリア」に区分し、それぞれのエリアで効果的な活用・保全を図るために拠点を立てて整備を進めるための構想「サングリーン21」を策定しました。</p>	
平成9年11月	<p>海浜・崖森エリア専門部会・農地整備専門部会設置</p> <p>協議会に海浜・崖森エリア専門部会、農地整備専門部会を設置しました。</p>	
平成10年3月	<p>エリア別の整備計画として「海浜・崖森エリアの基本計画(表浜自然ふれあいガーデン)」策定</p> <p>表浜地域の各種課題に対し、ソフト事業の実施・支援・推進から施設整備等のハード事業へと展開する5つの実現化プランを作成しました。(海浜・崖森エリア専門部会 検討期間:H9.11～H10.3)</p>	
平成10年3月	<p>「農地エリア整備に関する地元検討案(農村・農地の再生プラン)」策定</p> <p>協議会に農地整備専門部会を設け、現状を把握した上で、地域発展に必要な整備の地元案を作成しました。(農地整備専門部会 検討期間:H9.11～H10.10)</p>	
平成10年11月	<p>第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催</p> <p>海浜・崖森エリアの基本計画に基づき、最初のソフト事業として実施されたのが、「表浜自然ふれあいフェスティバル」です。表浜の自然景観の素晴らしさや海岸浸食の現状を市内外にPRし、海岸整備の促進を図ることを目的に毎年開催されています。</p>	
平成13年12月	<p>海浜拠点整備地区の選定(谷ノ口地区)</p> <p>最初の海浜拠点整備地区として「谷ノ口海岸」選定(旧田原町太平洋岸総合整備促進協議会における立候補・承認)され、海浜とその背後に整備すべき機能の具体的な内容を検討することとなりました。</p>	

◆谷ノ口総合整備促進協議会のあゆみ

太平洋岸地域整備基本構想・基本計画に基づき、集落の整備と海岸の利用・浸食対策を結びつけるモデル

平成14年5月	<p>谷ノ口総合整備促進協議会の設置</p> <p>谷ノ口地区に関し、地元住民と行政間の意見・提案等を集約し、基本計画に向けての意見調整等を行うため谷ノ口総合整備促進協議会が設置されました。</p>	 <p>▲谷ノ口地区(ええZONEマーケット)</p>
平成15年3月	<p>「ええZONEガーデン整備計画」策定</p> <p>谷ノ口地区の将来ビジョンを実現するための計画「ええZONEガーデン整備計画」を地元住民と行政間の意見・提案等を集約し策定しました。</p>	
平成16年7月	<p>国土交通省事業 地域振興アドバイザーを受入</p> <p>谷ノ口総合整備促進協議会では、地区内の諸問題を解決するため国土交通省から全国各地で活躍されている民間アドバイザー(3名)の派遣を受入れ、当地区における課題を地域振興策に反映する具体的な検討を行いました。</p>	
平成16年11月	<p>ええZONEマーケットの開設</p> <p>谷ノ口地区の地域活性化、PR等を目的に農産物の直売所を平成16年11月に開設しました。ええZONEマーケットは毎週日曜日の朝8時30分に開店し、朝市さながらの活気に包まれています。(毎週日曜日 午前8時30分～午後0時)</p>	
平成17年3月	<p>谷ノ口地区整備基本計画策定</p> <p>ええZONEガーデン整備計画報告書等の検討結果を受け、さらに具体的な検討を行い「谷ノ口地区整備基本計画」を策定しました。</p>	
平成19年8月	<p>体験農園「谷ノ口ええZONE農園」開設</p> <p>表浜ほうべの森の整備を見据え、他地域住民との交流等を目的に、平成19年8月に体験農園を開設しました。</p>	
平成20年4月	<p>表浜ほうべの森の整備開始</p> <p>平成20年度に用地取得、H21年度以降に施設整備開始に向けて検討を開始しました。平成21年11月25日に谷ノ口総合整備促進協議会定例会にて森林レクリエーション公園(仮称)から「表浜ほうべの森」に名称を改めました。</p>	

● 表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き・活動成果

○第16回を数える表浜自然ふれあいフェスティバルの開催や県への要望活動に継続的に取り組んできました。
この結果、愛知県による離岸堤の整備や治山工事など各種事業が着実に推進されています。
また、海浜拠点整備地区である谷ノ口地区では、谷ノ口総合整備促進協議会による自主的な活動が行われています。

ハード事業

◆ 海岸整備(県事業)

- ◇ 海岸保全事業(傾斜護岸): 百々海岸(H19)、離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸)
- ◇ 海岸治山事業: 13箇所要望中

◆ 拠点地区の整備促進(市事業)

- ◇ 公衆便所整備事業: 谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)
- ◇ 海岸駐車場事業: 大草海岸(H11)・百々海岸(H12)
- ◇ 道路整備事業: 南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16～H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)・谷ノ口海岸線拡張(H17～)・R42公民館前交差点改良(H18～)
- ◇ 公園整備事業: 表浜ほうべの森整備(H18～)

多額の予算を必要とする海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。



海岸治山事業(谷ノ口海岸)

AFTER

傾斜護岸(百々海岸)

表浜ほうべの森(イベント 海鳴UMINARI)

ソフト事業

◆ 表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

- ◇ メイン海岸: H10谷ノ口・H11大草・H12百々・H13東ヶ谷・H14大草・H15百々・H16分散開催・H17大草・H18百々・H19東ヶ谷・H20大草・H21百々・H22東ヶ谷・H23大草・H24百々・H25谷ノ口

◆ 表浜のレクリエーション

- ◇ 健康ウォーキング大会(市教育委員会): H10東ヶ谷海岸・H11大草海岸・H14谷ノ口海岸・H15百々海岸・H17百々海岸
- ◇ ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成): H13六連海岸



第1回表浜自然ふれあいフェスティバル
(平成10年11月14日㊥)



第6回表浜自然ふれあいフェスティバル
(平成15年10月25日㊥)



第11回表浜自然ふれあいフェスティバル
(平成20年9月28日㊥)

● 農地エリアの整備 実現に向けての動き・活動成果

ハード事業

◆ 農村・農地の整備(市事業)

- ◇ 農村総合整備事業: 神戸地区(H12～H16)・大草、高松地区(H18～)・田原東部地区(H19～)
- ◇ 農用地基盤整備事業: 谷熊新田排水対策(H20～)
- ◇ 農地・水・環境保全向上対策(H19～H25) ◇ 多面的機能支払事業(H26～)

ソフト事業

◆ 農地基盤に関する実態調査(市事業)

- ◇ 農地基盤再整備に関する調査: H11表浜全域

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

特集

表浜地域づくり情報誌「潮騒」

第1号から第15号より

この地域の貴重な記録の一部を紹介します。この時代に生きる私たちは、地域の方々が語る想いを今後引き継いでいく必要があります。

◎暮らす人々の想いがつまったこの「潮騒」各号は、田原市HPにて掲載しています。
田原市HP▶▶▶<http://www.city.tahara.aichi.jp/>

※編集に際し、文字表記・文末の表現の一部を変更しています。

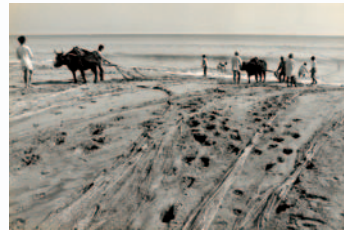
創刊号 H11.10.1 「地引網」より

太平洋の自然を満喫する健康的なレジャーとして人々を魅了する地引網は、長い歴史を持ち、昔は表浜の人々の暮らしと深い関わりをもっていました。

◆暮らしと網

北と南が海に面する渥美半島の人々は、古くから生計の手段として漁猟を営んでいました。特に近世になって農地が整備されるまで、少ない耕地と極度に水が乏しかった表浜地域にとって、生活費を補充する唯一の手段であり、貧困農民達が農閑に労働力と資金を集結し、地先の回遊魚を捕獲する百姓漁業でありました。

表浜の村々には地引網が組織され、昭和20年代までは漁獲高も多く、大草から六連までの間に18網があり、専業漁師も大勢いました。しかし、不漁続きや港がなく機械化が進められなかったことなどにより、昭和30代終りには生業としての地引網は消滅し、その後は趣味として一部の者によってボツボツ続けられてきました。



▲牛を使って網を引いていた頃
(写真提供:寺田博之氏)

- ◆漁の種類 ◆観光地引網のかけ方 ◆表浜の魚
- ◆地引網最盛期の頃 ◆現在の浜



第2号 H12.10.1 「表浜の農地」より

◆貧農からの飛躍

太平洋に突き出した渥美半島の特に表浜(遠州灘沿岸)側は、その地形・地質から極度に水が不足し、強酸性の痩せ地にイモ類や麦を栽培し、加えて養蚕、漁業などでようやく生計を維持する貧しい農村地域でありました。

昭和43年念願の豊川用水通水により、永い間苦しめられてきた水問題が解消された渥美半島は、豊川用水受入のために昭和37年頃から地域一丸で取り組んだ農地基盤整備と、温暖な自然条件、市場へのアクセスの良さ、日本の経済成長・所得水準の向上による消費動向の変化に適合した農産品の生産等が相まって、露地野菜、施設園芸、果樹、畜産を主とする全国有数の生産地へと変貌を遂げました。

- ◆豊川用水事業 ◆豊川用水の受入のための農地基盤整備 ◆農業基盤整備の先進地
- ◆営農の変化 ◆地域の将来に向けて(インタビュー) ◆農地基盤を支える大型プロジェクト
- ◆この地域に関わる国家プロジェクト

第3号 H13.10.1 「表浜の自然」より

◆失われる「ほうべ(浜・崖森)」

渥美半島の台地は、今から60万年から2万年ほど前に、主に天竜川方面から沿岸流で運ばれた砂礫が浅い海底に堆積し、その後の隆起で形成されました。まだ固まりきっていない柔らかいまみ砂の地層は、台風時の激しい風雨や、高波による浸食や地震による崩壊にさらされ、現在の崖を形作り、今なお後退し続けています。ほうべは平然としているように見えますが、実は悲鳴をあげ続けているのです。

- ◆ほうべの海食(浸食) ◆ほうべを守る ◆昔のほうべ ◆今のほうべ
- ◆崖森の将来 ◆自然と人間が共存する崖森エリアのプラン
- ◆自然と人間が共存するほうべのあり方



第4号 H14.9.17 「祭・行事」より

表浜地域は、豊かな自然の中で育まれた魅力ある伝統文化(祭・行事)が今なお受け継がれています。

◆引き継がれる祭・取り止められた行事

●地域の信頼に支えられた祭 おたがまつり(玉取祭)(長仙寺／六連校区)

祭は、神仏や自然に対する畏敬(いけい)の念から行われることが多いと思います。例えば、雨乞いをルーツとする田原祭りも同様です。おたがまつりの玉取は、海に対して恐れ敬う気持ちがベースにあり、玉は海であり神仏の加護の象徴で、その加護を受けようと若者たちが玉を争って取り合います。

●地域の信頼に支えられた祭 神楽(六連校区・東部校区・神戸地区)

●地区を担う子どもたちの行事 送り神(大泉寺／大草地区)

◆住民同士を結び付ける行事 共同作業・親睦イベント

◆地域資源を活かす取り組み 自らの地域を知り・自らの地域を創る活動 (谷ノ口総合整備促進協議会／谷ノ口地区)



第5号 H15.10.1 「表浜海岸の自然災害」より

自然災害は、暴風・豪雨・地震・津波・高潮、そのほか異常な自然現象により生ずる被害を指し、常に表浜海岸は自然災害と向き合った状態にあります。

過去から現在に至っては、海岸能力を発揮し私たちが自然災害(危険)から安全の域に導いてくれたこともありました。しかし、今現在の表浜海岸は、昔のような能力が失われつつあり、自然災害に対し十分な対応ができない状況にあると考えられます。

◆自然災害(地震・津波) ◆地震発生に伴う津波のメカニズム

◆東海地震の発生による津波の想定状況 ◆表浜海岸に着岸が想定された津波の波高表示

◆太平洋で過去に発生した大地震 ◆表浜海岸(砂浜部)で起きている問題

◆海岸の利用と安全な海岸づくりに必要な海岸整備 ◆災害発生時の連携



第6号 H16.10.1 「遊び・遊び場」より

私たちの思い出として残っている遊び、思い出の場所として存在していた遊び場は、今現在、少しずつ変化しています。一昔前、表浜地域の子どもたちは近所のあちらこちらで走り回り、そして自然(ほうべ・表浜海岸など)を舞台にして遊んでいました。

今は、人工的に造られた遊び場が増え、その区域の中で限られた遊び方しかできない時代であるとも言えます。

◆私たちの遊び場 ◆山学校で体験した遊び・遊び場

◆忘れることのできない記憶



▲地引網が揚がる横で波と戯れて遊ぶ子どもたち(昭和20年代／大草海岸)



第7号 H17.11.1 「開墾耕地を求めて」より

みなさんは、実り多き畑を求め、生まれ故郷を後にした人々の話をご存知ですか。大正・昭和の始め、農村の不況により、人々は収穫豊かな畑、そして自立した暮らしを求めするために、自ら考え決断し、そして行動することで今の農業を築き上げました。

私たちは今、何を目標に何を求め行動していますか。これから問われるのは、現在の状況を打開する行動だと思えます。

◆「開墾耕地を求めて」～田原市六連町富山地区

◆新たな決断 ◆移住先の暮らし

◆降りかかる苦難 ◆豊川用水事業

◆農業に課せられた問題

耕作放棄地・遊休農地の解消へ



▲富山の開墾者とその家族(昭和12年頃)

第8号 H18.10.16 「新緑の光と影」より

◆「深緑の光と影」～崖森の過去・現在・未来～

表浜沿岸の崖を緑で包んでいる、保安林とその背後の森林。どこまでも続く海岸線と深緑の帯が、個性的な景観を作り上げています。崖森と呼ばれるこの森について、少し考えてみましょう。

※保安林(ほあんりん)／公益目的を達成するために、農林水産大臣または都道府県知事が保安林として指定する森林のことで、目的に応じて17種類分かれています。東部太平洋沿岸地域の保安林は、主に「土砂流出防備保安林」「潮害防備保安林」に指定されています。

- ◆古(いにしえ)の道～伊勢街道～ ◆戦いの記憶～海岸防備～ ◆深緑の帯～保安林～
- ◆崖森の受難～崩落～ ◆崖森の課題～保全～ ◆崖森のこれから～活用～



第9号 H19.10.15 「海が、つなぐもの」より

◆人をひきつける表浜 ◆「訪れる」から「住む」へ

近年、観光やレクリエーションを通して表浜と触れ合ってきた市外の人々が、その魅力から太平洋岸に移住するケースや、退職後に移住してこの地域の住みよさを実感するケースが見受けられるようになってきました。こうした現象は、人口減少や少子高齢化時代において、地域資源を活用した集落活性化を目指す上でのヒントとなるものでしょう。

●移住者の声

- ◆来訪者との共存を ◆都市⇄農村のライフスタイル ●海がはぐくんだ友情



第10号 H20.9.1 「海への想い」より

海に面した表浜地域では、海と深い関わりを持って生活してきました。それぞれの時代の海への想いから、暮らし方や海との関わりの変化がみえてきます。

【過去】 昭和20年代までの表浜地域は漁業が盛んで、大草から久美原までの間に18もの網が存在し、専業の漁師もたくさんいました。漁は、天候や魚の回遊状況に左右されるのに加え、太平洋の荒波の中、小型の船での作業は危険と隣り合わせです。人は海に神の存在を感じ、豊漁や安全を祈ったのではないのでしょうか。今に残る、往時の人の想いを紹介します。

◆長仙寺の玉取祭 ◆百々神社の石灯籠 ◆海は学校

【現在】 漁業の不振や豊川用水通水後の農業発展により、今ではこの地域に漁業により生計をたてる人はいなくなりました。海は、生活の糧を得る場から、釣りやサーフィンなどのレジャー活動の場へと変化しました。豊漁や操業中の安全を神に祈る気持ちは、海岸を安全に利用するための活動や、自然環境を守ろうという行動へとその形を変えています。

◆安全な海岸利用に向けて ◆すばらしい自然を未来に



第11号 H21.10.15 「ほうべ(浜・崖森)を守る」より

◆ほうべの現状(ほうべの海食)

渥美半島の台地は、今から60万年から2万年ほど前に、主に天竜川方面から沿岸流で運ばれた砂礫が浅い海底に堆積し、日本列島を南から北へと押し上げるフィリピン海プレートの力によって隆起し形成されました。柔らかなまみ砂の地層は、台風時の激しい風雨や、高波による浸食や地震による崩壊によって削り取られ、40～60mの高い崖が見られます。

また、厳しい自然の洗礼とともに、供給源となる河川からの流下土砂の減少や、海食崖の崩壊が相まって、現在も海岸線の後退が進んでいます。

過去の文献に記載されている海食崖の崩壊や、古地形図から比較類推すると、大きなところでは数百mの海岸線の後退が生じていると考えられています。ほうべは美しい姿を見せる一方で、現在も悲鳴をあげ続けています。

●砂浜・海岸林・海食崖の防災機能

- ◆ほうべを侵食から守るために ●保安林
- 海岸保全施設の整備(傾斜護岸・消波堤・治山・離岸堤) ●砂浜を守るボランティア活動
- ◆わたし達にできること ●ほうべの利活用

第12号 H22.10.15 「歴史の足跡」より

明治10年代中頃には、現田原市域には40を越える小学校が存在しました。その後、尋常・高等の制度を経て町村合併等もからみ明治時代後半には、ほぼ現在の学校数に統合されていきました。

- ◆六連小学校
明治30年3月10日 創立 昭和51年8月 現在地に移転 昭和59年 フィールドアスレチック完成
- ◆神戸小学校
明治20年4月28日 創立 明治35年 4つの分教場が統合され現在地に校舎建設
昭和34年 鉄筋校舎建築 平成9年 校舎新築・改築
- ◆大草小学校
明治8年3月 創立 昭和43年～5年間 複式学級 昭和48年 大草団地が造成され児童増える
- ◆田原東部小学校
明治36年4月 創立 明治36年 豊島学校と谷熊学校が合併し相川尋常小学校として誕生
昭和22年 現在の校名に改称



第13号 H23.10.15 「各校区の行事」より

- ◆地域の主な年間行事、防災に対する取り組み
「我が家の想定内」大草市民館 主事／藤原勝子さん
「我が家(自分)の防災対策」神戸市民館 主事／三浦孝之さん
「非常持出袋」六連市民館 主事／河合清美さん
「田原東部校区の防災について」東部市民館 主事／千賀優子さん
- ◆防災行政無線屋外子局
- ◆災害時の避難所



▲東部校区(里山野外学習)



第14号 H24.11.1 「工事年報」より

◆東部太平洋岸地域の工事年報 海岸保全・治山工事、豊川用水二期事業(本線)

当協議会が発足(平成8年1月)して以来、東部太平洋岸の自然環境の保全と、海岸への来訪者の安全確保ならびに当該地域の振興・発展にかかる事業の整備促進に尽力いただいている愛知県をはじめ独立行政法人水資源機構豊川用水総合事業部の工事について紹介します。

- 離岸堤……………海岸から離れた沖合に、海岸線とほぼ平行に設けられる構造物。波の力を弱め、漂砂の量を抑えることにより、砂浜を維持し、回復させる効果があります。
- 治山(土留工・吹付工等) ……台風や地震などによって崩壊した斜面を元の森や傾斜地に戻します。
- 豊川用水二期工事……………豊川用水は、完成から30年以上が経過した水路もあり、コンクリートのひび割れや古くなった水路から水漏れが起きています。このため、新しく水路(併設水路)を造って古くなった水路を地震などの災害に強い元気な水路に改築し、水を送ります。



第15号 H25.11.1より

◆表浜ほうべの森公園の整備

田原市東部太平洋岸総合整備推進協議会では、平成10年3月に策定した基本計画に基づき平成13年12月に谷ノ口地区を海浜拠点整備のモデル地区として選定しました。

現在、谷ノ口地区で行われている「ええZONEマーケット」や「表浜ほうべの森公園」は、ええZONEガーデン整備計画に基づくもので、都市と農村との交流拠点施設として整備しています。



●暮らす人々の想いがつまったこの「潮騒」各号は、田原市HPにて掲載しています。
田原市HP▶▶▶<http://www.city.tahara.aichi.jp/>

※編集に際し、文字表記・文末の表現の一部を変更しています。

「源五郎さの鍬^{くわ}」

山田もと著

背がひくくて、がっしりしている源五郎さは、いつもピカピカの大きな鍬をかついで畑や田んぼにでかける。

「おい、水すまし源五郎さ泳げるかい。」

池にいる源五郎と名前が同じなので、子どもたちが面白がって遊びにくる。

源五郎さは、ほんとに池にいる源五郎のように、水にもぐるがうまいので池のゆりをぬく時、川をせき止めた板をはずす時、いつも池や川にもぐる。

雨の降らない暑い暑い夏、どこの田んぼもひびわれて稲は今にも枯れそう。用水地も水は底をついて、わずかなわき水がちよろちよろ流れているだけ。このちよろちよろ水を自分の田に入れようと、村の人は夜も昼も血まなこだ。もう水番さがふりわける水もないし、いうことをきいてもくれない。

源五郎さも鍬をかついで田まわりだ。水路にちびちび水が流れている。

「ちいとわけてもらうでう。」

源五郎さは水路を半分せき止め、水が半分下へいくようにして、自分の田んぼの水口をあける。水はちよろちよろの半分田に入る。やれやれ、一息ついて次の田へいく。

「ああ、また上で止められたな。やれやれ、一雨降っておくれたらなあ。」

また半分わけてもらってつれてきた水を、自分の田へ入れようと、水口の芝土をとろうとした時、いきなり黒い長靴が、源五郎さの鍬をふんづけた。

「なにせるだい。」

「なにもかにもあるか。人の水をぬすみやあがつて。」

「日での水は、半分こと昔から・・・。」

「そんなこと誰がきめただ。おれが引いとる水だ。つべこべぬかすな。」

もう一ど鍬がふんづけられた。

「お、鍬を、おれの鍬を・・・」

だが源五郎さは立ち向かってゆけなかった。

その人が自分の子どもほど若いあばれ者だったから。いやそれよりも、百姓の魂だとして、だいじだいじにしている鍬を、あの泥靴でふんづけられたくやしきで口もきけないのだ。

昔からの半分この水は、みんな流れてゆく。その時ちよろちよろ水に流されながら源五郎が一匹いるではないか。

「おお、源五郎か、池が干上がるで出てきたか。まあおれの田んぼでくらせや。」

源五郎さは、黒いつやつやした源五郎をつかんで、自分の田に入れた。」

「世の中かわったな、源五郎や。」

さっきのくやしきがおさまって、源五郎さの体の中で、なにかがガラガラとくずれる音がした。



【著者紹介】◎1920年 神戸村大草志田生まれ
◎1939年～47年 野田尋常小学校へ勤務
◎1957年 名古屋童話作家協会入会
◎1992年 田原町町政功労者表彰
◎2004年 逝去

山田さんは、田原中部小学校のPTA機関誌「家庭と学校」へ1964年から41年間にわたって156もの作品を寄せ、田原に伝わる民話や伝説、田原に縁のある人物の伝記はもちろん、地域の子どもの暮らしぶりを伝え、多くの皆さんに心豊かな安らぎを与えてくださいました。「表浜むかし話」では、山田さんのご逝去後も、その作品を紹介させていただいております。

創刊号 ● 大漁不動様
第2号 ● 水の乏しかった頃
第3号 ● 一本木の狐

第4号 ● 海亀のお墓
第5号 ● 潮の流れ
第6号 ● 砂場の砂はこび

第7号 ● ほうべの井戸
第8号 ● まちがい
第9号 ● おばあちゃんの井戸塾

第10号 ● 広吉じいの大松
第11号 ● 寝祭り
第12号 ● 神の釜と久丸さま

第13号 ● かご池の桜
第14号 ● 出水はどこだ
第15号 ● 三人兄弟と牛

表浜風土記

Interview

「表浜の風」

パラグライダーフライヤーの足立弘幸さんにお話をお伺いしました。

●パラグライダーのフライト数は…

年間120回ほど空を飛び、4月から9月にかけて約40回を表浜海岸の高塚エリア(豊橋市東七根町から田原市赤羽根町まで)でフライトします。通算のフライト数は、18年間で2,000回を越えます。

●表浜海岸の風は…

表浜海岸は、気流に乱れがない安定した海風が吹くため初心者にも安全で、4月から9月に南風が吹くときに、空の遊覧を楽しむことができます。適した風速は5m/s~8m/sです。

風が強いほど斜面上昇風により上昇することができます。条件が良ければ、高さ海拔200mまで上昇し、時速50kmで飛ぶこともできます。

「空から眺める海浜や崖森、キャベツ畑のそのひとつひとつが美しい。」「波の条件がよい百々、谷ノ口、大草海岸に多くのサーファーや釣り人が集まっている。」とこの地域の魅力をおだやかに語っていただきました。

今回の表紙の写真は足立さんが撮影しています。



豊川市在住
足立 弘幸さん(71歳)

平成26年度事業計画

■主要事業

第17回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 ●平成26年11月29日(土) 午前9時~午後0時30分
※悪天候の場合は平成26年11月30日(日)に延期

場所 ●久美原~大草の表浜一帯
※親睦会場は表浜ほうべの森公園

内容 ●海岸清掃、地引網(予定)、フライングディスクゴルフ、
特産鍋の無料提供ほか

目的 ●表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPR
することで海岸整備の促進を図る

■主な推進事業

農村総合整備事業:田原市産業振興部農政課
[大草・高松地区、田原東部地区]

多面的機能支払事業:田原市産業振興部農政課
[六連・神戸・大草・田原東部各校区]

海岸治山事業:愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策:愛知県東三河建設事務所

森林公園整備[谷ノ口地区]:田原市都市建設部街づくり推進課

第16回 表浜自然ふれあいフェスティバル

昨年開催

H25
11.30
開催



海岸侵食が進む表浜の現状と自然の魅力をPRすることを目的に、毎年開催しているこのフェスティバルも16回目を迎えました。青空の下、約1,800人の参加者が、久美原海岸~大草海岸までの海岸清掃を実施しました。海岸清掃・地引網終了後に防災意識を高めるため津波避難訓練を実施しました。

メイン会場となった表浜ほうべの森公園では、フライングディスクゴルフなどを楽しんだほか、各校区の女性が作った無料の特産鍋などを味わいながら、交流を深めました。

★表浜情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原市役所政策推進課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507

この冊子は再生紙を使用しています。